

匂宮(保・言・飯・麦・阿・玉)

14 29 | 01 給にしたまひし玉

14 29 | 01 かのナシ麦

14 29 | 01 御影におほむかけに保

14 29 | 01 たちつき立ならひ麦阿

14 29 | 01 人こそ保玉

14 29 | 01 そこらこころ保言

14 29 | 01 御すゑに御すへにも保言玉

14 29 | 01 ありかたかりけりありかたかりけれ保玉有  
かたかりけるを麦阿

14 29 | 02 三宮三のみやと保言飯玉三宮と言飯玉

※

14 29 | 03 そのナシ保言飯玉

14 29 | 03 おとにて所にて麦阿

14 29 | 03 おひいておほいて「てヲ削ッていてヲ書ク」

飯

14 29 | 03 給し給へりし麦阿

14 29 | 03 わか君とわか君なん麦阿

14 29 | 03 二所なんところなん言二ところそ麦  
阿

14 29 | 03 とりにきよらなるさまにいとときよ  
らなる保言玉(きよらなるきよ)らなる保

14 29 | 04 御名な保言玉御名を麦阿

14 29 | 04 給てけにいとなへてならぬ御有さまともなれ  
と給へれと保言玉

14 29 | 04 御有さまとも御ありさま飯御有様とも  
麦

14 29 | 04 いとまはゆききはにはまはゆきさまには

飯

14 29 | 05 おはせざるへしたよのつねの人さまにめて  
たくあてになまめかしくおはするをもと、し  
てあらすよのつねのめてたき人さまになま  
めかしくあてになともしたまふをいと、し  
く保言飯玉(めてたきめてたき言ナシ飯)

〔なまめかしくなまめかしくて飯〕いと、し  
くもと、して飯

14 29 | 05 なまめかしくなまめかしく麦阿

14 29 | 06 御ながらひに御ならひに玉

14 29 | 06 思きこえたるをもへる保言玉(思聞えたる  
麦

14 29 | 06 有さまもありさまの保言玉ありさまのいみ  
しく飯ありさまは麦阿

14 29 | 07 御ひ、きはひよりも御ひかりよりは保  
玉御ひかりは言御ひ、きよりも飯

14 29 | 07 たちまさり給へるたちまさり給保言玉たち  
まさる飯

14 29 | 07 おほえからおほえに言御おほえかうも「麦  
ノ御ハ虫損ニテ推読」麦阿

14 29 | 07 かたへはかたちはかたちは麦かたちは  
阿

14 29 | 07 こよなういとこよなく飯

14 29 | 08 いくしかりけるいつかしかりける保  
玉

14 29 | 08 むらさきの上のむらさきのうゑ保言玉

14 29 | 08 御心よせことに御心よしよせことに保御心  
よせことなりし飯ことに御心よせ麦阿御心  
さしよせことに玉

14 29 | 08 はく、みきこえ給しナシ飯

14 29 | 08 故ゆへに麦阿

14 29 | 08 三宮は三のみやは保女一宮は言玉女一の  
宮は玉

14 29 | 09 二条院に二てうの(るんに保

14 29 | 09 おはしますおはします三のみやはなほかの  
六てうの(るんにかのすみたまひしひんかしの  
たいをそのよの御すまひあらため給はてをり  
おりになほこひしのひきこえ給「保ハ「三の  
みやは」以下「きこえ給」マデミセケチ、後  
補充」保言玉三のみやは三宮は言六てうの  
るんに六てうの(るんに保六條院に言玉)  
おはします女一の宮は六條院にみなみのま  
ちのひむかしのたいをそのよの御しつらひあ  
らためすおはしましておりにつけてこひ  
きこえ給飯※

14 29 | 09 さるナシ保言玉

14 29 | 09 やむことなき物にやむことなきことにて  
飯

14 29 | 09 をきたてまつりたまてをいたてまつりたま  
ひて保言玉(をいおもひ玉)をきたてまつ  
りて飯し奉らせ給てふかく思聞えさせ給麦  
阿

14 29 | 10 御門きさきこの宮をは御かときさいも飯御  
門后此宮をは麦阿

14 29 | 10 かなしうしたてまつりナシ保言玉かなしき  
物にし奉らせ給てかしこき聞えに麦阿

14 29 | 10 かしつききこえさせかしつききこえ保  
言玉かしつきこえ飯かしつき麦阿

※

14 29 | 10 給宮なれば給へれば麦阿

14 29 | 10 うちすみをうちすみ飯

14 29 | 11 たてまつり給へと給へと聞え給へと麦

阿

14 29 | 11 古さとに御ふるさとに保言玉ふるさとを飯

麦阿

14 29 | 11 すみよくすみよう保言玉

14 29 | 11 なりけりナシ保言玉けり麦阿

14 29 | 11 御元服御けんふく保御くゑんふく飯

14 29 | 12 し給てはしへたまひて「後補力」保し給て

言麦阿玉

14 29 | 12 兵部卿とひやうふきやうのみやと保言飯麦

阿玉ひやうふきやうのみやと保兵部卿宮

と飯麦阿

14 29 | 12 女一の宮は六条院南のまちのひんかしのたい

を其世の御しつらひあらためすおはしまして

朝夕に恋忍ひきこえ給ナシ保言飯玉へ女一

宮は六条院みなみのまちのひんかしのたいを

そのよの御しつらいあらためすあさゆふこい

きこゑ給「後補力」保

14 29 | 12 女一の宮女一宮麦阿

14 29 | 12 六条院南のまちの六条院の南の町にかけて

麦阿

14 29 | 13 きこえ奉り麦阿

14 29 | 13 二宮も二のみやも保玉この宮も飯

14 29 | 14 御やすみ所に御むやすみところに保おほん

やすみところに玉

14 29 | 14 し給てまかてなしたまふ保言玉

14 29 | 14 御さうしにしたまふておほむさうしにて保

言麦阿玉おほむ御言麦阿御さうしにはし

たまふ飯

14 29 | 14 右のおほい殿の右のおとゝの飯右大殿の麦

阿※

14 30 | 01 中ひめ君中姫宮阿

14 30 | 01 たてまつりナシ保言飯玉

14 30 | 01 給へり「ま」へり保

14 30 | 01 坊かねにてはうかねて玉

14 30 | 01 いとナシ保言玉御中らひにて麦よき御中

らひにて阿

14 30 | 01 をもしくものしく保言麦阿玉おも

しく飯物しく麦阿

14 30 | 02 人からも人め(から)も保

14 30 | 02 すくよかになんすくよかにおもくなん保言

玉すくよかになん飯※

14 30 | 02 物し給けるおはしまして保言玉おはしけ

る飯

14 30 | 02 おほい殿の右大しんとゝ保言玉大将殿ゝ

飯大将の麦阿※

14 30 | 02 御むすめはおほむすめ保御むすめ言麦

阿おほんむすめ玉

14 30 | 02 いとあまたものしたまふナシ保言玉いとあ

また物し給を麦阿

14 30 | 03 大ひめ君はあねきみは「飯ハをノ上カラアヲ

書ク」保言飯玉

14 30 | 03 まいり給てナシ保言飯玉

14 30 | 03 なきさまにてすくなくて保言玉なくて

飯

14 30 | 04 そのこりの保言玉のこり飯

14 30 | 04 つきつきあまたものし給へは保言

飯玉(つき)つき(言)給へは給へ

る飯

14 30 | 04 みなこの保言玉

14 30 | 04 つるてのついでにの玉

14 30 | 04 こそはとこそいと麦

14 30 | 04 世の人も思きこえナシ保言玉よ人も思聞え

麦阿

14 30 | 04 きさいの宮もきさい(の)宮も保后宮も麦

阿

14 30 | 05 のたまはすれときこえたまひけれと保言

玉きこえ給へと飯

14 30 | 05 兵部卿の宮は兵部卿宮は言飯兵部卿宮の御

心には麦阿

14 30 | 05 おほしたらすおほいたらす保言玉おもほし

たらす麦阿

14 30 | 05 御心よりおこらさむ御心よせを御らんせ

さらん言御心をこらさらん飯

14 30 | 06 なとナシ保言飯玉

14 30 | 06 すさましくすさましく保言玉すさましくも

麦阿

14 30 | 06 おほしぬへきおほえぬへき言おもほしぬへ

き麦阿

14 30 | 06 御気色御心保言玉御心さま麦阿

14 30 | 06 なめりなんめるを飯なめる阿※

14 30 | 06 おともナシ保言飯玉

14 30 | 06 なにかはやうの何かはさやうの言何かやう

の麦阿

14 30 07 さのみしも保言飯玉  
 14 30 07 うるはしうはとうるはしうと保うるはしく  
 はと飯麦阿  
 14 30 07 しつめ給へとかのをともしつめ給て保言  
 飯玉〔をと〕もおと、言〔給て給へと飯〕  
 ※  
 14 30 07 またナシ保言玉また飯※  
 14 30 07 ざるさせる玉  
 14 30 07 御けしきけしきも麦御けしきも阿  
 14 30 07 あらむをはあらむをはた保言飯玉あらむを  
 はた〔後補力〕保  
 14 30 07 もてはなれてもあるましうもてはなるまし  
 う保言飯玉もてはなるましく飯  
 14 30 08 おもむけていといたうナシ言  
 14 30 08 おもむけておもふけて保麦おもふて  
 玉  
 14 30 08 いたういみしう保玉  
 14 30 08 きこえたてまつり保言玉  
 14 30 08 給た〔ま〕ふ保  
 14 30 08 六の君姫君言玉六君麦阿  
 14 30 08 その比のそのころ保言阿玉そのころよに  
 飯その比も麦※  
 14 30 09 すこしナシ保言玉  
 14 30 09 我はと思のほり思あかり飯  
 14 30 09 給へる給ける保言玉給へる様を麦阿〔様  
 をさまを阿〕  
 14 30 09 みこたち御子立麦阿  
 14 30 09 御心こゝろ保言玉  
 14 30 09 つくすつ玉

14 30 09 くさはひにものし給けるくさはいなりける  
 保言玉  
 14 30 09 給ける給阿  
 14 30 10 さまつとひ給へりし御方なくつ  
 ゐにおはすへきすみかともにみなおのつ  
 つろひ給しにゐんかくれたまひてのちいつ  
 れの御かたもこ、かしこつゐのあるへき  
 おほんすみかになくもうつろいさため給  
 しに保言飯玉たまひてたまふて玉こ、か  
 しこ、かしこにうつろひ飯〔つゐのつゐ  
 に言飯へるの玉〕あるへきすむへき飯〔お  
 ほん御言飯玉〕なくもなく言飯〕  
 〔うつろいさためさたまり飯〕様につと  
 ひ給へりし御かたも院かくれ給て後はこ  
 、かしこへなくつゐなるへきすみかとも  
 にみなうつろひ給しに麦阿〔様〕につと  
 ひ給へりし御かたもナシ阿〔つゐなる  
 へきつゐになるへき阿〕給しに給しに  
 〔後出にハ虫損ニテ推読〕麦〕  
 14 30 11 きこえしは聞しは麦  
 14 30 11 東の院をそひんかしのゐむを保言飯玉東院  
 をそ麦阿  
 14 30 11 御そうふむ所にて御そふむののにて保言  
 玉〔御そふむの御そうふんの言玉〕御せうふ  
 ところにて飯御そうふの所にて麦阿  
 14 30 12 わたりそこにわたり飯  
 14 30 12 給にけるたまふ保言飯玉  
 14 30 12 入道の宮はにうへたうの宮は保入道宮は麦  
 阿

14 30 12 三条宮に三条のみやに保飯玉もとの三条の  
 宮に麦阿〔三条の宮に三条宮に阿〕  
 14 30 12 いまきさきはいまきさきの宮はたた保言玉  
 〔いまきさきの宮いまきさいの宮言〕いまの  
 きさいは飯  
 14 30 13 院のうち院の中言院のうちの麦院のうち  
 阿※  
 14 30 13 さひしく人すくなにあれゆきてさひしう保  
 言玉あれのみ行てさひしく飯人すくなにさ  
 ひしく麦阿  
 14 30 13 成にけるをなりゆきければ保言玉なりゆく  
 を飯なりにける阿  
 14 30 13 右のおと、右大との保玉右のおほいとと言  
 ※  
 14 30 14 み間にもみきくにつけても保みきくも麦  
 阿  
 14 30 14 いけるかきりの世にいけるさかりの世に  
 飯いきたるほと麦阿  
 14 30 14 とめてつくし飯  
 14 30 14 つくりしめたる人のつくりひこめたる保つ  
 くらひしめたる言つくりひしめたる人の  
 飯つくりひひめたる玉  
 14 31 01 家の家ゐる言家の飯麦阿  
 14 31 01 なこりなくナシ保言玉なこりなう飯  
 14 31 01 世のなこりもナシ保言麦阿玉よのならひも  
 飯  
 14 31 01 つねなくつねのよなしと保玉つねのかなし  
 さと言つねなしと飯つねのあるしなしと麦  
 阿つねのあるしへなしと麦

14 31 01いとナシ保言麦玉  
 14 31 02わか我麦  
 14 31 02世にあらんよの保言飯玉  
 14 31 02院ナシ阿  
 14 31 02あらさすあらさて飯  
 14 31 02おほちおほみち保おうち麦阿おほみち玉  
 14 31 03などナシ保言玉  
 14 31 03かれはつましうとあれはつましくてと飯  
 14 31 03おほしおもほし麦阿  
 14 31 03のたまはせてのたまひて保言飯麦阿玉のたまて玉  
 14 31 03うしとらのまぢにかのかのうしとらのまぢに保言玉  
 14 31 03一条の宮をてうの宮をてヲ削ッててヲ書クカ保一條宮を言麦阿  
 14 31 04たてまつり奉らせ麦阿  
 14 31 04給てたまて玉  
 14 31 04夜ことにこのみんとに保言飯玉こゝとに麦阿  
 14 31 04十五日つゝ十五日をわけつゝ保言玉  
 14 31 04うるはしうナシ保言飯麦阿玉  
 14 31 05すみナシ麦阿  
 14 31 05二条院とて二条のみんとて保玉  
 14 31 05つくりつくりひ言  
 14 31 05六条の院の六條院の言飯麦阿  
 14 31 05春のおとゝとて春のおとゝの言

14 31 05のゝしるゆすりし保言玉のゝしりし飯麦阿  
 14 31 06たゝひとりのみなた人ひとりの保言玉たゝ人ひとりの飯  
 14 31 06御末おほむすへ保玉  
 14 31 06成けりなりなりけり保ナシ飯  
 14 31 06とみえてとみえたり保言飯玉  
 14 31 07しつゝナシ保言玉  
 14 31 07給へり給保言玉給てすくし給飯  
 14 31 07おほいとのは大との保飯玉おとゝは言  
 14 31 07いつかたの御事をもいつれの御かたをも飯  
 14 31 08むかしのたゝいにしへの保言飯玉  
 14 31 08御心をきて御をきて阿  
 14 31 08まゝにやうに麦阿  
 14 31 08あまねきあまねう保言玉あまねく言玉  
 14 31 09給にも給ても保言玉給つゝ飯たまても玉  
 14 31 09かやうにてかくてすえのよに保言玉かくても飯かやうにても麦阿  
 14 31 09とまりとまり言  
 14 31 09給へらましかはた[ま]へらましかは保  
 14 31 09いかはかりいかに保言玉  
 14 31 09心を心さしを保言飯玉  
 14 31 10つかうまつりナシ飯  
 14 31 10みえみ麦阿  
 14 31 10とりわきてとりわきたる保言玉とり[わ]き

14 31 10心よせと心よると言玉心よせ麦阿  
 14 31 11みしり給へきみしり給飯しり給へき麦阿  
 14 31 11すき給にし事をすきにしよを保玉すきにし  
 14 31 11くちおしうくちをしく飯麦阿  
 14 31 11あかすかなしうあかぬことに保言玉あかす  
 14 31 12あめのしたのあめかしたの飯天下の麦  
 14 31 12院を院を「みむヲ削ッて院ヲ書ク」保阿  
 14 31 12恋きこえぬこひ聞ぬ阿  
 14 31 12なく人そなきう保なう言ひとなう玉  
 14 31 12つけてもつけて飯  
 14 31 12世は世には麦阿  
 14 31 12けちたるたちたる言  
 14 31 13なけきをせぬなけきせぬ飯麦阿玉  
 14 31 13おりなかりけり人なうこひたてまつる保言玉人もなくこひをしみきこゆ飯  
 14 31 13ましてナシ保言玉まいて麦阿  
 14 31 13殿のうちのとのゝうとの玉  
 14 31 13人々したしき人保言玉人麦阿  
 14 31 14なとはなんと保などの言玉のなんとの玉  
 14 31 14さらにもきこえず御しのひくきには保言玉さらにもいはす麦阿  
 14 31 14御事をは御事を言御ことへを「補入位置ヲ誤ルカ」玉

14 31 14 又た、保言飯玉  
 14 32 01 むらさきのむらさきのうえの保言  
 14 32 01 御有さまを御ありさまをのみそ飯  
 14 32 01 しめつゝしめてそ保言玉しめて麦阿  
 14 32 01 よろつの事にナシ飯  
 14 32 01 つけてナシ保言飯玉  
 14 32 01 給はぬ給保言玉給はぬは阿  
 14 32 01 時のまなしナシ保言玉時のまなし飯麦  
 阿  
 14 32 02 春のナシ麦阿  
 14 32 02 花のさかりはさくらは保言玉花さかりは麦  
 阿  
 14 32 02 おほえおもほえ麦  
 14 32 02 物と物に保言飯麦阿玉※  
 14 32 02 二品宮の二ほんのみやの保言飯麦阿玉  
 14 32 03 わか君は(哉(わか)君は「後補力」言  
 14 32 03 給へりしたまひし保  
 14 32 03 冷泉院の御門れむせいゐんのみかと保飯冷  
 泉院にのみ麦阿  
 14 32 03 とりわきてとりわき麦阿  
 14 32 03 おほしおもほし言麦阿  
 14 32 04 後の宮も中宮も保言飯玉后宫も麦阿  
 14 32 04 みこたちなとみこたちなとの保言玉みこな  
 とも飯※  
 14 32 04 心ほそうゆくすえのころほそう保言玉ゆ  
 くすゑ心ほそく飯※  
 14 32 04 おほさるゝおもほさるゝ麦阿  
 14 32 04 御うしろみ御うしろ言

14 32 05 たのみきこえ給へり御元服なとも院にてナ  
 シ飯  
 14 32 05 きこえナシ保言玉  
 14 32 05 御元服おほむかうふり保言玉(おほむ御言  
 玉)けんふく麦阿  
 14 32 05 せさせ給せさせたてまつりたまふ保言飯  
 玉  
 14 32 06 給ふ給ひ保言言麦阿玉給(ひ)「本文同筆  
 力」言  
 14 32 06 秋右近中将に秋右近中将に保秋右近の中  
 将に言秋左(右イ)近衛中将に飯秋のつかさ  
 にて右中将に麦秋の司にそ右中将に阿  
 14 32 06 成てなりたまひて保言麦阿玉  
 14 32 06 御たうはりの御たういりの飯※  
 14 32 06 なとをなと保玉なとを「を後補力」言なと  
 (を)飯  
 14 32 06 いつこのいつこの飯いつれの麦阿  
 14 32 07 いそぎいそぎて麦阿  
 14 32 07 おとなひさせおとなひさせたてまつり「保ハ  
 □ノ上カラたヲ書クカ」保言玉  
 14 32 07 給給を麦阿  
 14 32 08 さうしに御さうしにて保言玉御さうしに  
 飯さうしにて麦阿  
 14 32 08 なとにも保言飯麦阿玉  
 14 32 08 みつからナシ保言玉御身つから飯※  
 14 32 08 御覧しいれて御らんしいれつゝ保言飯玉  
 ※  
 14 32 08 わかき人もわかい保言玉わかき人／＼も  
 飯わかき玉※

14 32 08 わらはわらははへ保言玉わらはわらは  
 麦  
 14 32 09 女のよの麦阿  
 14 32 09 御きしきよりもきしきよりも保言麦阿玉御  
 気色よりも飯※  
 14 32 09 よりもより麦阿  
 14 32 09 まはゆくナシ保言玉  
 14 32 09 うへにも宮にもうゑに保言玉  
 14 32 10 女房の女もの麦  
 14 32 10 中にもナシ保言玉なかに飯  
 14 32 10 あてやかにめやすきはめやすしと御らんす  
 るは保言玉あてにめやすきは飯  
 14 32 11 わたさせ給つゝわたさせ給て保言玉わたし  
 給つゝ飯  
 14 32 11 院の宮の飯  
 14 32 11 心につけて心につき飯  
 14 32 11 ありよくナシ保言飯玉ありよう麦阿  
 14 32 11 思へくとのみおもふへうとのみ保言玉おも  
 ふへくも(と)とのへ飯  
 14 32 12 御あつかひくさにおほんかしつきくさに保言  
 玉おほん御言玉御あつかひくさと飯  
 14 32 12 おほされ給へりおほされたり飯おもほされ  
 給へり麦阿  
 14 32 12 故ちしのおほい殿のちしのおほいとのおほいとの保  
 言玉ちしの大官の言こちしのおとゝの飯麦  
 阿  
 14 32 12 女御と女と玉  
 14 32 12 きこえしきえし玉  
 14 32 13 女宮女宮なん保言麦阿玉姫宮飯

14 32 | 13 一所ひとり麦阿  
 14 32 | 13 おはしけるを おはしましけるを保言飯  
 玉  
 14 32 | 13 なむ ナシ保言麦阿玉  
 14 32 | 13 かきりなく かきりなう保言玉  
 14 32 | 13 かしつき かしつきたてまつり保言飯玉  
 14 32 | 13 御ありきまさま麦阿  
 14 32 | 14 きさいの宮のきさいの宮の「にノ上カラ後出  
 のヲ書ク」保后の麦阿  
 14 32 | 14 御おほえの おほんおほえ保言玉(おほん 御  
 言)  
 14 32 | 14 とし月にとし月にそえて保言飯麦阿玉  
 14 32 | 14 けはひに 御けはひに飯  
 14 32 | 14 こそはこそ玉  
 14 32 | 14 などか かと保  
 14 32 | 14 さしもとさしも阿  
 14 32 | 14 みる みゆる保言飯麦阿玉  
 14 33 | 01 御をこなひ おこなひ保言玉  
 14 33 | 01 し給てしたまて玉  
 14 33 | 01 月の月ことの保言飯玉 月ことに麦阿  
 14 33 | 01 御念仏 御ねふつ 保念仏麦  
 14 33 | 01 二たひのふたたび飯  
 14 33 | 02 御八講 おほんはかう 保玉 おほん八講  
 玉  
 14 33 | 02 おり 〳のたうとき 御いと なみはかりを おり  
 〳にたうとき ことのみ 御いと なみに飯  
 14 33 | 02 し給てしたまて 保玉  
 14 33 | 03 出入 給ふいていりしたまふ 保言玉  
 14 33 | 03 おやのやうにを やのえしうに玉

14 33 | 03 たのもしき影に たのもしく飯  
 14 33 | 03 おほしたれは おほいたれは 保言玉 思きこえ  
 たまへれば飯 おもほしたれは 麦阿  
 14 33 | 04 あはれにて あはれに飯  
 14 33 | 04 内にも 内にも玉  
 14 33 | 04 めしまとは しめしまつはし 保玉 めしまとは  
 して 麦  
 14 33 | 04 春宮も 春宮にも 保言玉 春宮飯  
 14 33 | 04 つき 〳のつかさ 〳の飯  
 14 33 | 04 宮達も 宮たちにも 保言玉  
 14 33 | 04 御あそひかたきにて おほんあそひかたきに  
 て 保玉 御あそひかたき 麦 御あそひかたきに  
 阿  
 14 33 | 05 給へは たまふに 保言玉 給へり飯  
 14 33 | 05 いとまなく いとまなう 保言飯玉  
 14 33 | 05 くるしくくるしうて 保言玉 くるし飯 くる  
 しう 麦阿  
 14 33 | 05 身を 身をも 麦阿  
 14 33 | 05 わけてしかなと わけてしかなと 保言飯  
 玉  
 14 33 | 06 覚 おもほえ 麦阿  
 14 33 | 06 給ける 給けるを 「言ノをハ後補力」 言 麦  
 阿  
 14 33 | 06 をさな心ちに をさなき心ちにも 飯 おさなき  
 心に 麦阿※  
 14 33 | 06 ほのほの 麦  
 14 33 | 06 き 給しき たまふし玉  
 14 33 | 06 ことのおり 〳ことをのこり 保言飯玉  
 14 33 | 06 いふかしく いふかしく 保 麦阿 ゆかしく

飯 いふかしく 麦  
 14 33 | 06 思わたれと 思わたれとも 麦阿  
 14 33 | 07 宮には 宮には た 保言飯玉 宮に た 麦 宮に  
 たに 阿  
 14 33 | 07 ことのさる ことの 保飯 麦阿 玉 さる 事  
 言  
 14 33 | 07 けしきにて も けしきにも 保言玉  
 14 33 | 07 しりけりと しりにけりと 飯  
 14 33 | 07 おほされん おほされんは 保言玉 おほされん  
 も 飯 おもほさん 麦阿※  
 14 33 | 08 すち ことのすち 飯  
 14 33 | 08 よとよものよとよもの「さノ上カラと、ヲ書  
 クカ」保  
 14 33 | 08 心にかけて こころにかけて 保  
 14 33 | 08 いかなりける いかなりけん 保言玉 いかなら  
 む 飯  
 14 33 | 08 事にかはよにかはと 飯  
 14 33 | 08 契にて 契に 麦阿  
 14 33 | 09 かう かく 保言飯玉 かく やん 事なき 事ながら  
 麦阿  
 14 33 | 09 やすからぬ やすからぬ 「すヲ削ツテぬヲ書  
 ク」飯  
 14 33 | 09 思 思の 麦阿  
 14 33 | 09 なりいてけん なりけん 保言玉 也いてんけん  
 と 麦 なりいてけん と 阿  
 14 33 | 09 せんけうたいしのけうる 大しの 保玉 けうる  
 大しの(せんけうたいしの 本) 保てむけう  
 大師の 飯  
 14 33 | 09 我身にとひけん わかみを とひえけん 保言

14 33 10 さとりをもさとりも保言麦阿さりも  
 玉  
 14 33 10 えてしかなとそえてしかなと保言飯麦阿  
 玉  
 14 33 10 給ひけるける保言玉給飯給て麦阿  
 14 33 11 誰にとはましたれにかとはん麦阿  
 14 33 11 しらぬ我身そしらぬわか身をなどの給へと  
 麦阿  
 14 33 11 いらふへき人もなしことにふれてわか身につ  
 へかある心ちするもナシ保玉  
 14 33 11 いらふへきいとふへき言いふへき飯  
 14 33 12 ふれてふれては麦阿  
 14 33 12 わかみに我身言  
 14 33 12 物なけかしくものなけかしう保言麦阿  
 玉  
 14 33 13 思めくらしつへおもほしめくらしつへ  
 飯  
 14 33 13 宮もみやも保宮麦阿  
 14 33 13 御かたち御身麦阿  
 14 33 13 やつし給てやつしたまふて保やつし給けむ  
 飯やつしたまて玉  
 14 33 13 御道心にてか御たうしむにてかは保言飯  
 玉  
 14 33 14 おもむきをもふき保玉  
 14 33 14 給けん給にけん言  
 14 33 14 かくかう保飯玉ナシ言かし麦阿  
 14 33 14 なりけるなる保言玉なりけむ(る)飯  
 14 33 14 みたれにみたれにぞ麦阿

14 34 01 おほしなるおもほしなる麦阿  
 14 34 01 ふしふし麦阿  
 14 34 01 ありけんありけりむ玉  
 14 34 01 もりいてもりいて飯  
 14 34 01 いらしやはいらしや飯  
 14 34 02 けしきをけしきを飯麦阿  
 14 34 02 なきナシ言  
 14 34 02 なめりとなんめりと飯ならんと麦阿  
 14 34 02 おもふおもふに保言玉おほす飯おもほし  
 つ麦阿  
 14 34 03 やうやう玉  
 14 34 03 なめれとなれと飯麦阿  
 14 34 03 はかなくはかもなく保玉はかへもなく「本  
 文同筆力」言  
 14 34 03 おほとき給へるおほとかなる飯  
 14 34 03 御さとのほとに御さとの程には飯さと  
 りのほとには麦阿※  
 14 34 03 露もつゆをも保言玉  
 14 34 04 あきらかにあきらかに麦  
 14 34 04 こともこと保言玉  
 14 34 04 かたしいとかたく麦阿  
 14 34 04 いつのなにかしもたいはほんにあるいつ  
 のなにかしも飯いつくの雲も麦いつくの  
 雲も阿  
 14 34 05 み心ちを御みちをたすけて「保ハチニミセケ  
 チカ」保言飯玉みちをたすけて麦阿  
 14 34 05 おなしうはをなくは飯麦阿  
 14 34 05 かのナシ飯  
 14 34 05 給ひけんもたまひにけん人も保言飯玉

14 34 05 やすからぬやすからず飯  
 14 34 06 むすほれてむすほるれて「ハカ」言  
 14 34 06 をしはかるにをしはかるるれば飯  
 14 34 06 せまほしきせまほし麦  
 14 34 07 元服は元服にも保玉けんふくも言くゑん  
 ふくは飯  
 14 34 07 給けれと給けんれと「んノミセケチハ本文同  
 筆力」言給けれ共麦けれと阿たまふけれと  
 玉  
 14 34 07 すまひはてすえすまひはてす保言玉えすま  
 ゐはて給はす飯※  
 14 34 07 世中に世に飯  
 14 34 07 もてなされてもてはやされて言  
 14 34 08 心にころにも保言玉ころへにも保心  
 には麦阿  
 14 34 08 つかすのみ思しつかりかすにもおもほさて  
 しつまり麦阿  
 14 34 08 給へりナシ保玉給言  
 保  
 14 34 09 は宮のは宮の「はヲ削ツテのヲ書ク」  
 14 34 09 御方さまの御御かたさまの飯  
 14 34 09 御心よせ御心よせ「□□ヲ削ツテよせヲ書  
 ク」飯心よせ麦阿  
 14 34 09 ふかくてふかうて保言玉  
 14 34 09 おほされおもほしめされて麦阿  
 14 34 09 きさいの宮后宮麦阿  
 14 34 10 ひとつおとにてひとつおとにて飯ひ  
 と所にて麦阿  
 14 34 10 宮たちも宮たち保言飯阿玉※

14 34 | 10 おひいてを「ひ」いて保  
 14 34 | 10 あそひナシ飯  
 14 34 | 10 御もてなしおほんもてなし保玉御もてなし  
 を言飯  
 14 34 | 11 末に「すゑのよに飯  
 14 34 | 11 むまれ給て「むまれたまて保玉  
 14 34 | 11 心くるしう心くるしう保心くるしう飯麦  
 阿※  
 14 34 | 11 おとなしうも「おとなしくも保玉おとなしく  
 飯  
 14 34 | 12 事と事を言麦阿「ことゝなん飯  
 14 34 | 12 院の「ナシ飯  
 14 34 | 12 おほしの給ひしを「おもほしの給はせしを  
 言「おもほしの給しを飯麦阿「おほしのたまし  
 を玉  
 14 34 | 12 給つゝ「おろかならす思きこえ「ナシ麦阿  
 14 34 | 12 給つゝ「つゝ「言たまつゝ玉  
 14 34 | 12 おろかならす思きこえ給へり「ナシ保言  
 玉  
 14 34 | 12 給へり「給飯  
 14 34 | 13 御子どもの君たち「御きみたち保麦阿玉「君た  
 ち言  
 14 34 | 13 此君をは「此君は麦阿  
 14 34 | 13 やうことなく「やむ事なく保言飯麦阿玉  
 14 34 | 14 かしつき「ナシ飯  
 14 34 | 14 たてまつり給ふゝ「「キ」こえ給保言玉「きこ  
 え給へり飯  
 14 34 | 14 むかし「ナシ保言玉  
 14 34 | 14 又なき「やむことなき保言飯玉

14 35 | 01 そねみ「そねみきこえ保言玉「そそみ飯  
 14 35 | 01 御うしろみ「おほんうしろみ飯  
 14 35 | 01 なく「つよいことなう「保ハひヲ削ッテいヲ書  
 クカ「保言玉「なう飯「ひとりつよき事なく麦  
 阿  
 14 35 | 01 なと有しに「おはせしを麦阿  
 14 35 | 01 御こゝろさま「おほんこゝろさまものとかに  
 保言玉「おほん「御言玉」御心さまも飯御心  
 さまに麦阿※  
 14 35 | 01 物ふかくもの「ふかう保麦阿玉物かう  
 言  
 14 35 | 02 世中を「世中も麦阿  
 14 35 | 02 おほしなたらめし「人よりおほしのとめし保  
 言玉「「ヲ」ほしなためし飯「おもほしなた  
 められし麦阿※  
 14 35 | 02 御光を「御ひかりをも保言麦阿玉「御ひかりは  
 飯  
 14 35 | 02 もてしつめ「もてなしつめ保  
 14 35 | 03 給ひ「給言「給つ飯麦阿※  
 14 35 | 03 つみに「いかに飯  
 14 35 | 03 さる「ナシ麦阿  
 14 35 | 03 いみしき「ナシ保言飯玉  
 14 35 | 03 いてきぬへかりし「いてきぬへかりし「キラ  
 削ッテかりヲ書ク「飯「いてきぬかりし麦  
 14 35 | 03 事をも「よを保言玉「を飯  
 14 35 | 03 ことなく「ことなう保言玉「こともなく飯こ  
 よなく「ことなう麦「ことなく「ことなう阿  
 14 35 | 03 すくし「すこし保  
 14 35 | 04 給て「たまた玉

14 35 | 04 御つとめ「おほんつとめ保つとめ麦阿  
 14 35 | 04 をくらかし「をくらし保言玉  
 14 35 | 04 さりけなくて「さりけなうて保玉「さりけなう  
 麦阿  
 14 35 | 05 御心をきて「おほん心をきて保御をきて  
 言  
 14 35 | 05 またしきに「またきに保玉「またしきに「しハ  
 後補力「言  
 14 35 | 05 いと「ナシ保言玉「いたう飯  
 14 35 | 05 思あかりたる「おもひあかり給へる保言飯  
 玉  
 14 35 | 06 こよなく「こよなう保言玉  
 14 35 | 06 など「ナシ飯麦阿  
 14 35 | 06 ものし給ふけに「物し給けるに言「もし給ける  
 けに飯「物し給けるけに麦阿※  
 14 35 | 06 さるへくて「さるへうて保言玉「さるへく  
 麦  
 14 35 | 06 いと「ナシ麦阿  
 14 35 | 07 かりに「に飯  
 14 35 | 07 やとれるかとも「やとれると保言玉「やとり給  
 へるかとも飯  
 14 35 | 07 みゆる「みゆ飯「見る麦阿※  
 14 35 | 07 こと「ことも保言玉「ナシ飯  
 14 35 | 07 給へり「給へる飯  
 14 35 | 07 かほかたちも「かほかたちなと飯「かをかたち  
 も玉  
 14 35 | 07 そはかといつこなむすくれたる「そはか  
 となく「いつこなむすくれたる飯「そはかと  
 なく「なんすくれ給へる麦阿



14 35 | 08 きよらとときよらとも保言玉 | うつくしと麦  
 阿  
 14 35 | 08 所も所は飯  
 14 35 | 08 なきかおほせねと麦阿  
 14 35 | 08 たゝナシ保言玉  
 14 35 | 08 なまめかしうなまめかしく飯麦阿  
 14 35 | 09 心のおくこゝろの「をく保心」をく玉  
 14 35 | 09 おほかりけなるおほかりけ「なる保お」か  
 りけにみゆる飯  
 14 35 | 09 けはひのけはるの「をノ上カラけヲ書クカ」  
 保けはる飯  
 14 35 | 09 けりナシ保言玉  
 14 35 | 09 香御有か麦阿  
 14 35 | 09 かうはしきそかうはしきさそ「キノミセケチ  
 本文同筆力」言  
 14 35 | 10 此世のこのよの人の保言玉 | 此世の物の麦  
 阿  
 14 35 | 10 あやしきまであやしき迄句ひみちける麦  
 阿  
 14 35 | 10 あたりわたりは飯  
 14 35 | 10 へたゝるへたゝりたる保玉 | へたてたる飯  
 ※  
 14 35 | 11 をい風にをひかせも保言飯麦阿玉  
 14 35 | 11 ほかもほとも保玉  
 14 35 | 11 しけるしけるを保  
 14 35 | 11 さはかりになりぬるさはかりなる飯※  
 14 35 | 12 御有さま御有様麦  
 14 35 | 12 やつれはみやつれやはする麦阿  
 14 35 | 12 ありなるやはあるへきありなるやうやはあ

るへき飯ありなるへきや麦阿※  
 14 35 | 12 我われは保言玉  
 14 35 | 13 つくろひナシ保言玉 | 身にはつくろひ麦  
 阿  
 14 35 | 13 よういナシ飯  
 14 35 | 13 へかめるをへかめれと麦阿  
 14 35 | 13 かくかう保言玉  
 14 35 | 13 かたはなるまでかたはなるまでかほりいり  
 つゝ麦阿  
 14 35 | 13 たちよらむたちよらんも麦阿  
 14 35 | 14 くまくれ麦  
 14 35 | 14 しるぎしるく飯阿 | しるゝ麦  
 14 35 | 14 ほのめきのほのめき給はんに麦阿  
 14 35 | 14 有ましきにあるまし「(き)に飯  
 14 35 | 14 うるさかりてうるさかり給て飯 | うるさくわ  
 ひしうおもほして麦阿  
 14 36 | 01 とりもつけ給はねと | とりもつけたまはねと  
 も保言 | とりもとりもな保 | とりもなつけ給  
 はす飯 | うつろひあるへきかほりなどは御身  
 にふれ給はすされとも麦阿 | とりもなつた  
 まねとも玉  
 14 36 | 01 御からひつに | からひつ飯  
 14 36 | 01 香のかともゝ | からのかうとんゝ保言玉 | とん  
 ゝともゝ言 | かうとも飯 | かうのかとも麦  
 阿※  
 14 36 | 01 此君のはこの宮のは保言玉 | こゝのは麦  
 阿  
 14 36 | 02 いふよしもなき | いふよし飯 | いふよしなきに  
 麦阿

14 36 | 02 くはへくはえて保くはふりにやにほひこと  
 也麦阿 | くはふりにやくはふるにや阿 | くは  
 へて玉  
 14 36 | 02 おまへの御まへの飯阿 | 御前の麦※  
 14 36 | 02 花の木もはなにも保言玉  
 14 36 | 02 はかなくはかなう保玉 | はかう言  
 14 36 | 02 袖ふれ給ふ | そてうちかけたまふ | 「保ハてヲ  
 削ツテたヲ書クカ」保言玉 | 「そてそへて保」  
 袖かけ給飯麦阿  
 14 36 | 02 むめの香は梅か枝も飯  
 14 36 | 03 しづくにもしづくに飯  
 14 36 | 03 身にかに保玉  
 14 36 | 03 人おほく人もすくれて麦阿  
 14 36 | 03 ふちはかかもふちはかも麦 | ふちはかま  
 阿  
 14 36 | 04 をひ風をひ風も保玉 | をひ風に言飯をひ風  
 も(に)飯  
 14 36 | 04 おりなしからをりなしからに保言飯玉 | おり  
 ふしから麦阿  
 14 36 | 05 かくかう飯 | ナシ麦阿  
 14 36 | 05 いとナシ飯  
 14 36 | 05 香にかほりに麦阿  
 14 36 | 05 兵部卿の宮なん | 兵部卿宮なん言飯阿玉 | 兵部  
 卿四宮なん麦※  
 14 36 | 06 いとましくいとましく保言玉  
 14 36 | 06 おほしておもほして麦阿  
 14 36 | 06 それははんへ(そ) | れは保 | ナシ麦阿  
 14 36 | 06 よろつのナシ保言玉  
 14 36 | 06 うつしうつしのか麦阿

14 36 | 06 給ひたまふ飯 給麦阿※

14 36 | 07 ことわざにて わさに言 ことくきに麦阿 こと

わさにも玉

14 36 | 07 あはせいとなみ いとなみあはせ飯 あはせい

となみたきくゆらかし麦阿

14 36 | 07 御前の をまへの 保言飯麦阿玉 御まへの 飯

※

14 36 | 07 せんさいにも せんさいも麦阿

14 36 | 07 梅花その むめのはなその 保言麦阿玉

14 36 | 07 なかめ給 なかめたまひ 保言玉 なかめ麦阿

※

14 36 | 08 めつる いろにめつる 保言飯麦阿

14 36 | 08 女郎花を みなへし おも「保ハのヲ削ッテおヲ

書クカ、おニミセケチカ」保言玉

14 36 | 08 すめる する 保言玉 よする 麦阿

14 36 | 09 うつしう つり 麦阿

14 36 | 09 給はす ナシ飯

14 36 | 09 菊に きく 保言麦阿玉 まで 飯

14 36 | 09 藤は かま 藤は かまの 言

14 36 | 09 などとは などを 保言玉 ナシ 麦阿

14 36 | 10 すさ ましき すましき 麦

14 36 | 10 ころを ひ これを ひ 麦

14 36 | 10 おほし すてす おもほし すてす 麦阿

14 36 | 10 わさとめきて いとわさと かましき まで 保言

玉

14 36 | 11 この ましう この ましく 保飯麦阿玉

14 36 | 11 おほし ける おほし ける 保言玉

14 36 | 11 やはらきて やわらき すきて 「てノ上カラすヲ

書ク」飯

14 36 | 11 すいたる すきたる 保言玉

14 36 | 12 方に 方には 麦

14 36 | 12 世の人は よ人も 保言玉 よ人は 麦阿

14 36 | 12 思きこえ きこえ 阿

14 36 | 12 源氏は くゑん し飯

14 36 | 12 かく かう 麦阿

14 36 | 13 事と 事そ 麦阿

14 36 | 13 しみ 給へる しみた まふ 保言玉 しみたる

飯

14 36 | 13 み 給へる 方そ なかり しかし 源中将 此宮には ナ

シ 麦阿

14 36 | 13 方そ なかり しかし かに そを はせ かり しか

し 飯※

14 36 | 13 源中将 此宮には つねに けん中 しやうは つね

に この みやに 保玉 けん中 しやうは けんし の

中 しやうは 保 源中将 は つねに この 言※

14 36 | 13 まいりつ ま入 かよひつ 飯

14 36 | 14 御あそひ なども おほん あそひ なども 保

玉 あそひ など 飯

14 36 | 14 きしろ ふ まき しろう 保 ましろう 麦阿玉 ま

しらふ 阿※

14 36 | 14 ふきた て けに 吹たて 麦阿

14 36 | 14 いと ましく も いと ましう も 保言玉 いと まし

く 飯

14 37 | 01 とち とちは 保言麦阿玉 とち 飯※

14 37 | 01 給ふつ へき 給へき 保言飯麦阿

14 37 | 01 人さま 人のさま 保言玉 さま 飯

14 37 | 01 世人は よの人は 保言飯玉※

14 37 | 01 にほふ 兵部卿 にほふ ひやう ふきやう の 宮保

玉

14 37 | 02 いひつ けて いひつ けて 保言玉

14 37 | 02 おはする もち 給へる 麦阿 なむする 玉

14 37 | 02 やう こと なき やむ こと なき 保言飯麦 こと な

き 阿 よき 玉

14 37 | 03 きこえ こち きこえ こち いて 保言 聞えう ちい

て 「言ノうちヲこちトスルハ後補カ」言玉 聞

え 麦阿

14 37 | 03 あれは あはれ には 「先出はアルカ」保

14 37 | 03 宮は ナシ 飯

14 37 | 03 さま さま さま さま 麦阿

14 37 | 03 わたりを は あたりを は 「保ハあニ削訂カ」保

言 麦阿玉 わたりを は 飯※

14 37 | 04 の 給ひより て の たまひ て 保 の 給より つ 麦

阿

14 37 | 04 御 けは ひ おほん けは ひ 保 けは ひ 言 麦阿 御

けは ひ 「補入ハ本文同筆カ」言 ナシ 飯

14 37 | 04 あり さまを も 御 あり さま 飯 有 様を も

阿

14 37 | 04 給ふ たまひ 保 給に 言 給 麦阿

14 37 | 04 わさと ナシ 麦阿

14 37 | 04 御心 に おほん 心に 保 心に 麦阿

14 37 | 04 つけて つきて 言 飯 麦阿※

14 37 | 05 おほす かは おもほす かは 飯 おほす 事は

麦阿 御す かは 玉

14 37 | 05 こと に ナシ 麦阿

14 37 | 05 冷泉院の れんせい ゐんの 保飯

14 37 | 05 女一の 宮を そ 女一の 宮を の みそ 保言飯玉 一

宮を も 麦 女一 宮を も 阿※

14 37 05 さやうにても さやかにても 保玉 さやうにて  
 飯  
 14 37 05 みたてまつらは やみたてまつらは 保言阿  
 玉 見たてまつらは 飯奉らは 麦※  
 14 37 06 おほしたるは おほしとおほしけるに 保 おほ  
 いたるに 言玉 おほしよる 飯 おもほしたるは  
 麦阿 おほしたるに 玉※  
 14 37 06 をもくを もりかに 保言玉  
 14 37 07 御けは ひけに 御けは ひも 麦阿  
 14 37 07 有かたく ありかたう 保言 麦阿玉  
 14 37 07 すくれて ナシ 保言玉 よにすくれて 飯  
 14 37 07 きこえも 御を ほえも 保言玉  
 14 37 07 おはしますに おはします 飯  
 14 37 08 まして 保言阿玉 いて 麦  
 14 37 08 すこしちかくも ちかう 保言玉 すこしちかく  
 飯 すこしちかうも 麦阿※  
 14 37 08 さふらひなれたる さふらひなれたる 「ひ二削  
 訂カ」保 さふらふ 飯  
 14 37 08 女房 女も 麦  
 14 37 08 御有さまの おほんありさまを 保言飯玉 おほ  
 ん 御言飯 御有様の 麦  
 14 37 09 ふれて ふれつ 保言玉 ふれてつ 保  
 14 37 09 きこえつたふる 聞えいつる 言  
 14 37 09 いと 保言飯玉  
 14 37 09 忍ひかたく しのひかたう 保言玉  
 14 37 09 へかめり へかめる也 麦阿  
 14 37 10 ふかく つかう 保言飯玉  
 14 37 10 思すましたる おもひすくしたる 保玉※  
 14 37 10 心なれば ころなれば 保玉 心なれ△飯

14 37 10 心とめて 心をとめて 麦阿  
 14 37 11 なんと 麦阿  
 14 37 11 おもふに おもへは 保言 麦阿玉 おもふに 飯  
 ※  
 14 37 11 あたりに わたりに 飯  
 14 37 11 か づらはんは か づらはんことは 「削訂ア  
 ルカ」飯 か づらむは 玉  
 14 37 12 つましくなと すさましう 保言玉 すさま  
 (ま) しう 保 つましましなと 飯 つましましうな  
 と 麦阿  
 14 37 12 思すて 給 おもひすて たまうも 保言飯玉  
 14 37 12 ほとほとの 保言阿玉  
 14 37 13 ゆるし ゆるし 阿  
 14 37 13 事などは すきころは 保言玉 すきころ  
 は 保 すきことは 飯  
 14 37 13 まして 保言 麦阿  
 14 37 14 とし ことし 玉  
 14 37 14 三位の 宰相にて 三ののさいしやうにて 保 三  
 位 宰相にて 飯 四位 宰相にて 麦阿 四(三イ)位  
 宰相にて 阿  
 14 37 14 中将も 中将を 飯  
 14 37 14 はなれす はなれ給はず 飯 麦阿  
 14 37 14 御門 みかと 麦阿  
 14 37 14 きさきの きさいの 宮の 保言玉 きさいの  
 飯 后との 麦阿  
 14 37 14 御もてなしに おほんもてなしに 保玉  
 14 38 01 た 人にては た 人にて 飯  
 14 38 01 は かりなきは かりもなく 保言飯玉 は かり  
 なく 麦阿

14 38 01 人の 人 飯  
 14 38 01 おほえにて おほえにも 保玉 おほえに 言に  
 て 飯 御おほえに 麦阿  
 14 38 01 物し給へと おわすれと 麦阿  
 14 38 01 心の中には ころのうちには 保飯玉 心中に  
 は 麦阿  
 14 38 02 思しるかたありて 思しり 麦阿  
 14 38 02 物あはれに 哀に 言  
 14 38 02 なども なんと 保玉 など 言 飯 麦阿  
 14 38 02 ありければ ありければ 「るヲ削ッテれヲ書  
 ク」保 おほされければ 飯  
 14 38 03 をさ 麦阿  
 14 38 03 よろつの 事 よろつの ことを 飯  
 14 38 03 もてしつめつ 保もてしつ  
 めつと 飯  
 14 38 04 人にも 人に 飯  
 14 38 04 三宮の 三の 宮の 保言玉 三の 宮の 「本文同  
 筆カ」言 三宮わりなく 飯  
 14 38 04 年に とし 月に 保言飯玉  
 14 38 04 そへて そへては 麦阿  
 14 38 04 ひめ宮 姫君 麦  
 14 38 04 御あたりを 御わたりと 飯  
 14 38 05 みるにも しねんに 保言玉  
 14 38 05 ひとつ 院の 一院の 麦阿  
 14 38 05 中に うちに 保言飯 麦阿玉  
 14 38 05 立なれ給へは へたちはなれたまは ねは 保は  
 なれ給は ねは 言 たちなれ給へれば 飯 たまは  
 ねは 玉  
 14 38 05 ふれても ふれて 保言玉

14 38 | 05 有さまをおほんありさまを保言飯玉(おほ  
ん御言飯玉)有様麦阿有さま阿

14 38 | 06 きゝみたてまつるにみきゝたまふに保言  
玉見聞給に言見きゝたてまつるに飯麦阿

※  
14 38 | 06 御もてなし御ありさま保言玉

14 38 | 07 かやうなるかやうならん保言飯玉かゝらん  
麦阿

14 38 | 07 人をひとのおほんあたりを「保ハをヲ削ッ  
テのヲ書クカ」保玉(おほんあたりを御あた  
りを玉)御あたりを言人の御ありさまを飯

※

14 38 | 07 みんなこそみんこそ保言飯麦阿玉

14 38 | 07 いけるかきりの心ゆくへきつまなれと思な  
から大かたこそへいけるかきりの心ゆくへきつ  
まなへかめれとはおもひなからおほかたにこ

そ玉

14 38 | 07 かきりのナシ飯

14 38 | 07 心ゆくへき心行飯

14 38 | 08 なれとなへかめれとは保玉なるへかめれと

言ならめと飯※

14 38 | 08 思ながら思給を麦阿

14 38 | 08 大かたこそおほかたにこそ保言飯玉※

14 38 | 08 へたつる事へたつることん保玉(ことんこ  
とも玉)※

14 38 | 08 おほしたれおもほしたれ麦阿

14 38 | 08 ひめ宮ひめ宮保※

14 38 | 09 こよなくこよなう保言玉いとこよなく

飯

14 38 | 09 け遠くけとをへく保けとをう言けとう

玉

14 38 | 09 ならはさせ給もならはせ給も飯玉

14 38 | 09 わつらはしければはつらはしければ言あな  
つらはしければ麦阿

14 38 | 10 外の外なる飯

14 38 | 10 つかはつかは言

14 38 | 10 いとナシ保言玉

14 38 | 10 あしかるへきあしかへい保言玉あしかるへ

い言あやしかるへき麦阿

14 38 | 11 事と事を言

14 38 | 11 物なれよるものなれたる保言玉

14 38 | 11 わかかくれいのかく保言玉わか飯我が  
く麦我がから阿※

14 38 | 11 人に人めに麦阿

14 38 | 11 給へる給麦阿

14 38 | 12 有さま人の御ありさま飯有様麦

14 38 | 12 はかなくはかなう保言玉

14 38 | 12 こと葉をことのはを保飯玉

14 38 | 12 こよなくこよなう保言玉

14 38 | 12 もてはなる心なくもてはなるはなく保  
言飯玉

14 38 | 13 なひきやすなるなひきやすきなる保なひき  
やすけなる言なひきやすめる阿※

14 38 | 14 人のために人のためなとも飯

14 38 | 14 ことくしくうとくしく保ことくしく

言飯

14 38 | 14 なんととも保言麦阿玉ナシ飯

14 38 | 14 よくよう飯麦阿

14 38 | 14 まぎらはしもてなして飯

14 38 | 14 そこはかとなくそこはかとなう麦阿

14 39 | 01 なさけなからぬなさけならぬ阿※

14 39 | 01 ほとこのほとに麦阿

14 39 | 01 思よれるおもひよはる保言飯玉おもひよ  
[は]る保※

〔は〕る保※

14 39 | 01 人は人麦阿

14 39 | 01 いさなはれつゝいさなはれたてまつり飯い  
とゝなはれつゝ玉

とゝなはれつゝ玉

14 39 | 01 三条の宮に三條宮に言飯麦阿

14 39 | 02 あつまるはあつまるも保言玉あつまりて  
飯あつまりつゝ麦阿

14 39 | 02 つれなきをされともつれなき御ありさまを  
麦阿

麦阿

14 39 | 02 みるも見るにも飯※

14 39 | 02 なめれとなんめれと保なれと飯

14 39 | 03 よりはよりはと保言飯玉

14 39 | 03 心ほそきに心ほそけに飯

14 39 | 03 思わひて思わひつゝ保言玉思つゝ飯

14 39 | 03 契にナシ保言飯玉

14 39 | 04 いとナシ保言玉

14 39 | 04 なつかしうなつかしく飯

14 39 | 04 御有さま御心さま保言御有様麦心さま  
玉

玉

14 39 | 05 人ひとも保言玉

14 39 | 05 はからるゝかゝる飯麦阿

14 39 | 05 みすくさるゝみすくす保言玉見すくさす  
飯見すくさる麦阿※

飯見すくさる麦阿※

14 39-05 おはしまさむ おはしまさむ「すノ上カウさむ  
ヲ書ク」飯  
14 39-05 よの御よの保言玉  
14 39-06 御めかれす 御へめかれす「本文同筆力」言 御  
めかれへせす 飯 御かれす 玉  
14 39-06 御覽せられ 御らんせさせ 麦 阿 せられ  
玉  
14 39-06 みえたてまつらんを みたてまつらんを 言  
飯  
14 39-06 おもひの給へは おもふたまへは 保飯玉 思ひ  
給へり 言 思給へは 飯  
14 39-07 御むすめたち おほんむすめたち 保  
14 39-07 ひとり ひとり ひとり ひとり ひとり ひとり ひとり  
「はと」本文同筆力「言  
14 39-07 心さし おもひ心さし 飯  
14 39-07 なから なから 保※  
14 39-07 えこと いたてたまはす えこと いたてたまはす  
保玉 こと いたて給はす 言 飯※  
14 39-08 さすかに なにかは 保言玉  
14 39-08 なから ひなるを とは なから ひを とは 言 御な  
から ひなり とは 飯  
14 39-08 思なせと おほしなせと 飯 おほせと 玉  
14 39-09 おきて そむきて 保言玉  
14 39-09 なすら ひなるへき なすら ひなる 保飯玉  
14 39-09 もとめいつへき 世かはともとめいつへきに  
もあらぬよかなと 保玉 もとめいつへき もと  
めはつへき 玉 もとめいつへき にもあらぬ  
世かな「本文同筆力」言 もとめいつへき にも  
あらぬよをなと 飯※

14 39-09 おほし おもほし 飯 麦 阿  
14 39-10 内侍のすけ腹の ないしはらの 保言玉 内侍の  
はらの 麦 阿  
14 39-10 六の君とか 六君中に 飯 六君 麦 阿  
14 39-10 心はへこころはせ 保言 飯 玉  
14 39-11 おひいてをいひ(い)て 保  
14 39-11 給ふを世の たまふよその 保言 飯 玉  
14 39-11 おほえの おほえ おもひ 飯※  
14 39-11 なるへき なへき 保言 玉 なへい 言  
14 39-11 かく ナシ 飯  
14 39-11 あたらしきを あたらし 敷 麦 あたらしき 阿  
※  
14 39-12 心くるしう 心くるしく 麦 阿  
14 39-12 おほして おほされて 飯 おもほして 麦  
阿  
14 39-12 一条の宮の 一条宮の 飯 麦 阿  
14 39-12 さるさるへき 保言 玉  
14 39-12 あつかひくさ あつかひくさも 保言 麦 阿 玉 ぐ  
さはひ 飯※  
14 39-12 もたまへらても たまへらぬに 保玉 もたまへ  
らぬか 言 もたまへられて 飯 「モ」ち給は  
て 麦 阿  
14 39-13 むかへとりて むかへとり 保言 麦 阿 玉 むかへ  
とりて 飯※  
14 39-13 たてまつり ナシ 玉  
14 39-13 なくて なうて 保 玉  
14 39-14 心とめ給てん ナシ 飯 こころとめへたま  
ひてん 玉  
14 39-14 有さまをも ありさまをも「本文同筆力」言 有

様も 麦  
14 39-14 するみしる 保言 飯 玉  
14 40-01 おほして おほいて 保言 玉 おもほして 麦  
阿  
14 40-01 いくくしくは いくくしう 物ふかうな とは 保  
言 玉 いくくしう 物ふかうは 飯 いくくしう 麦  
阿  
14 40-01 もてなし 給はす もてない たまはす 保言 玉 も  
てなし(い) たまはす 保 もて給はす 飯  
14 40-01 給はす 給 麦 阿  
14 40-01 いまめかしく おかしき いまめかしく 保言  
玉 おかしき 麦 阿  
14 40-01 やうに さまに 麦 阿  
14 40-01 ものこのみ ものこのみ を 飯 このみ 玉  
14 40-02 せさせて せさせて 「後補力」言  
14 40-02 心つけん ころを つけん 保 飯 玉  
14 40-02 おほく おほう 保言 玉  
14 40-02 つくりなし つくり 玉  
14 40-03 まうけ まうけは 麦 阿  
14 40-03 六条院 六てうの めん 保言 六条「の」院「後補  
力」言  
14 40-03 心ことに ことに 麦 阿  
14 40-03 し給て し給ふて 「ふヲひニ直スハ後補力」  
言 したまて 玉  
14 40-03 みこをも みこたちも 麦 阿  
14 40-04 みこたち 御こたち 保 玉  
14 40-04 おとなに おとなひ 麦 阿 を となにも 玉  
14 40-04 きさい腹のは きさいはらは 保玉 后はらの 麦  
阿

14 40 04 につれともなくいづれとなく飯麦阿  
 14 40 05 けたかくきよけにおはしますみなけたかう  
     をかしけにみえたまふ保言玉※  
 14 40 05 中にもなかにも保玉  
 14 40 05 きよけきよら麦阿  
 14 40 05 中にもうちに飯  
 14 40 05 此ナシ保言麦阿玉 此飯※  
 14 40 05 兵部卿の宮はひやうふきやうのみや保言玉  
     〔ひやうふひやへうふ保〕兵部卿宮言兵部  
     卿宮は飯麦阿  
 14 40 05 けにナシ麦阿  
 14 40 06 こよなうこよなくをかしけに保言玉こよな  
     くこよなう〔本文同筆力〕言こよなくけ  
     うらに飯  
 14 40 06 のみこ四のみや保言玉四宮言  
 14 40 06 ひとたちの宮ときこゆるひとたちの宮ときこゆ  
     るは飯麦阿〔宮みこ麦阿〕  
 14 40 06 更衣腹のはかうぬはらにて飯  
 14 40 07 こよなうこよなく保言飯玉おほく麦  
     阿  
 14 40 07 左佐(ひとり)〔左カ、後補カ〕言  
 14 40 07 あなちにかちぬあなちにかちぬれば飯  
     阿あなちぬれば麦  
 14 40 07 れいよりはとく事はてれいよりもいと、  
     うはて、保言玉とくことはて、飯  
 14 40 07 大将 大さう保 大殿飯 大将殿麦阿  
 14 40 08 兵部卿宮ひやうふきやうの宮保言玉兵部卿  
     〔の〕宮〔本文同筆力〕言兵部卿四宮麦  
 14 40 08 ひとたちの宮へひとたちのみや保ひたりの宮

飯ひとたちの宮は麦※  
 14 40 08 きさき腹のきさいはらの保言玉后腹の麦  
     阿  
 14 40 08 五の宮と五みやと保麦阿五みやの御こと  
     (と)保五のみこ言五の御こと玉※  
 14 40 08 ひとつ車にひとつ御くるまに保言飯玉  
 14 40 08 のせよせ麦阿  
 14 40 08 たてまつりてたてまつりたまひて保言  
     玉  
 14 40 09 まかて給まかて給に飯給麦  
 14 40 09 宰相中将はさい将の中将は保言玉宰相〔の〕  
     中将は〔本文同筆力〕言宰相の中将飯  
 14 40 09 まけかたまたかけ言  
 14 40 09 をとなくをとなう保言玉をとなくて  
     飯  
 14 40 09 給にけるを給けるを〔飯ハにノ上カラけヲ書  
     ク〕保言飯麦阿玉  
 14 40 10 御をくりには御をくりは玉  
 14 40 10 をしとめさせをしとめさせ給て  
     飯  
 14 40 10 右衛門のかみゑもんのかみ保麦阿玉右衛門  
     督言衛門督飯  
 14 40 11 権中納言権大納言、玉  
 14 40 11 右大弁左大弁玉  
 14 40 11 さらぬさふらふ言  
 14 40 11 これかれにこれかれ保言飯玉  
 14 40 11 のりましりのりましりて飯麦阿  
 14 40 12 六条院へおはす六てうのみにおはする〔保  
     ハヘヲ削ツテにヲ書クカ〕保言飯玉六てうの

るんに六條の院に〔本文同筆力〕言六条院  
     に飯〕  
 14 40 12 雪ゆきの保玉  
 14 40 12 いさかナシ飯  
 14 40 12 ちりてちりて〔後補カ〕言うちちりて飯ち  
     り玉  
 14 40 12 也より言  
 14 40 12 物のねもののねとん保言飯玉(とん)とも言  
     飯玉〕※  
 14 40 13 ふぎたてあそひて入給ふをふぎたてうた  
     ひあそひりたまふ保言飯玉たまふ給を飯〕  
     ※  
 14 40 13 あそひてあそひて麦あそひ阿※  
 14 40 13 仏の国にかはほとけのみに、か保言みく  
     に御国言〕仏の御国かは麦阿ほとけのくに  
     玉  
 14 40 14 おりふしのおりふしの飯※  
 14 40 14 心やり所を心をイやるところを保心をや  
     る所を言玉心やりところを飯心やり所麦  
     阿  
 14 40 14 もとめむともとむと玉  
 14 41 01 中少将中將言中少將のさに麦阿  
 14 41 01 つきわたりつきにたり麦阿つきたり  
     玉  
 14 41 01 むかひてむかへて保言麦阿玉むかいて飯  
     ※  
 14 41 01 ゑかのゑんかの保言玉ナシ飯麦阿  
 14 41 01 みこたち上達部のかんたちめ御子たちの  
     飯みこ上達部の麦阿

14 41 02 御かはらけなと おほんかはらけなと保  
 14 41 02 物ナシ保言玉  
 14 41 02 おもしろくをもしろう保言玉  
 14 41 02 もとめこをとめこ保飯麦阿も(を)とめこ  
 「傍記カ」保もとめた玉※  
 14 41 02 まひてかよるまひたる保言玉まひよる飯麦  
 阿  
 14 41 03 袖とものそてとんの保そてくち麦阿  
 14 41 03 うちかへすはかへすは麦阿  
 14 41 03 御前おまへ保言をまへの玉※  
 14 41 03 梅のこうはゐの飯  
 14 41 03 いたくちかふ保言玉いたう飯  
 14 41 03 ほころひこほれたるほころひたる麦阿

14 41 04 うちりわたれるにうちりたるに保言飯  
 玉うちりこほれたるに麦阿  
 14 41 04 御かほりの御かほり保飯麦阿玉御かほり  
 「の」後補カ言  
 14 41 04 いとしくいとしく保言玉めてたく麦  
 阿  
 14 41 05 はつかにわつかに麦阿  
 14 41 05 なともナシ麦  
 14 41 05 あやなくあやなくと保言玉  
 14 41 05 心許なき心やましき保言飯玉  
 14 41 06 けにナシ保言飯玉※  
 14 41 06 似たるにる麦阿  
 14 41 06 なかりけれとめてあへりけになかりけれとめ

てきこえあへり「保補入アルカ」保言玉※  
 14 41 07 ようるもようも飯よほをひも麦よそほひ  
 も阿  
 14 41 07 常よりつねよりも保言飯玉  
 14 41 07 まさりてまさり飯  
 14 41 07 おさめたるをさめ給へる保言玉おさくお  
 さめたる麦阿  
 14 41 07 みてナシ保言玉み給て飯  
 14 41 08 こゑくはへなをこえくはへ保言飯玉なを  
 してくはへ麦なをこえくはへ阿  
 14 41 08 まらうとたしやまらうとたし「玉ノハ  
 エトヨムベキカ」保玉まう人たし言まめ  
 たし麦阿  
 14 41 09 神のますなとかみのますな(や)なと保※